

地域保健関連労働者の放射線リスク認知・精神健康度の現状分析と介入効果の検証

研究代表者：

熊谷敦史（福島県立医科大学医学部放射線健康管理学講座）

研究分担者：

小宮ひろみ（福島県立医科大学附属病院性差医療センター）

後藤あや（前福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、現福島県立医科大学総合科学教育研究センター）

事業評価者：

南原摩利（福島県立医科大学・長崎大学 同大学院災害・被ばく医療科学共同専攻）

【背景】

福島原発事故後の地域保健活動では、放射線健康不安やメンタルストレス、生活不活発病等に関わる業務が飛躍的に増大した。しかし保健師は放射線健康リスクに関する教育をほとんど受けておらず、基礎的知識のない中で施策立案、住民対応を行わざるを得ない。放射線健康リスク対応部門以外の保健師は、放射線健康不安をベースにもつ住民対応の中で放射線関連不安に接することも多いものの、放射線に関する知識に接する機会が乏しい。保健師自身の放射線リスクに関する知識と認知、リスクリテラシー、メンタルサポート等に関する疑問を専門家による介入、相互議論のもとでの解決が求められている。

福島県立医科大学は、平成 23 年度より同公衆衛生学講座、同附属病院性差医療センター、同災害医療総合学習センターが中心となり福島県内の保健師を対象として放射線に関する知識の向上、情報交換の促進、ストレス軽減を目標とした出前講座を実施してきた。平成 24 年度に計 3 回（のべ 74 名）、平成 25 年度は計 4 回（のべ 122 名）、平成 26・27 年度は各計 12 回（のべ 260 名、272 名）、平成 28 年度は計 10 回（のべ 166 名）であり、平成 26 年度から福島県全域に対象を広げて実施しており、放射線質問コーナーも新設し、毎回個別相談を行うこととした。参加者の評価は高く、この出前講座を契機に市町村保健師との連携による地域での放射線にかかわるミニ勉強会・座談会等が多く生まれており、現実的な地域保健活動に対する支援モデルとなっており、かつ継続希望も多い。

そこで、引き続き出前講座を行い、より有効な介入のあり方を検討した。ここでは平成 28 年度に実施した放射線関連の研修について評価する。

【方法】

1. 研究デザイン
介入研究

2. 対象者

福島県内自治体および県所属の保健師

3. 介入内容

放射線を題材としたヘルスリテラシー研修を、話し合いからなる2部構成で以下2回実施した。

日時：平成29年1月16日（月）14:00～16:00

場所：郡山市保健所

日時：平成29年2月14日（火）13:30～15:30

場所：福島市保健福祉センター

途中経過として報告した平成27年度の研修に基づき研修内容を改訂した。2回シリーズを1回にし、放射線については題材としてヘルスリテラシー研修の一環として扱った。放射線の健康影響に関するリスク情報の伝え方についての講義につづき、学んだ新しい技術を用いて県民健康調査のリーフレットをより分かりやすくする演習を行った。話し合いでの意見はポストイットで書き出し、KJ法により意見を集約した。また、放射線質問コーナーを設置して専門的な質問に対応した。

4. 調査方法

参加直後に自記式無記名の研修評価アンケートを実施した。また、事業評価者が研修の様子を観察して記録した。

5. データ分析

(1) 研修の満足度と自己評価について量的データ集計を行った。明日から取り組みたいことについての自由記載は、テキストマイニングのツールであるKH coderを用いて分析した。

(2) 研修の一環で意見をポストイットに書き出してカテゴリー化し、入力した。

【結果】

(1) 第一部：講義

講師は後藤あや（福島県立医科大学総合科学教育研究センター）で、テーマは、「ヘルスリテラシー 健康情報を読み解く力、伝える力」であった。まず初めに保健師支援研修会の出前講座を行うようになった経緯と目的が説明され、今回のヘルスリテラシーを学ぶ意義の確認がなされた。ヘルスリテラシーとニューメラシーという新しい概念紹介と健康情報の評価方法、CCI、SAM、チュウ太の道具箱、質問法など技術の習得ができ大変有意義な学びの時となった。

(2) 第二部：話し合い

6人ずつ3グループに分かれ、グループワークを行った。提示された課題リーフレットの中で改訂すべき点に注目し、講義中に学んだ様々なツールを使って評価した。各自ポストイット一枚ごとにアイデアを記載し、模造紙に貼付。グループ内で同じ内容のものをカテゴリー化し、グループごとに発表した。参加者全員でそれぞれの評価方法の学びを共有した。グループ間で共通した意見は、言葉の表現の簡便化、専門用語を理解しやすい言葉、文章に書き変えること、イラスト、グラフなどを用いて視覚的にアピールし、理解しやすい表現にすることであった（添付資料参照）。放射線のリスクコミュニケーションに関連することとしては、情報伝達の対象を明確化・限定化（放射線健康不安をもつ母親等）することにより、より効果的な資料作りにつながることが挙げられた。グループ発表後、講師より、新しく改訂したリーフレットの提示とともに保健システム強化上でのヘルスリテラシーの重要性の再確認があり、参加者全員で学びを共有した。

（3）研修会を振り返って

参加者全体の雰囲気は、大変意欲的でグループワークにも積極的に取り組んでいた。

第一部では、前半一時間は講義を聞くのみであり、手法の整理が曖昧なままグループワークに入り、参加者も少し戸惑っているような感じを受けたが、各グループに入ったファシリテーターの導きにより活発な意見交換がされた。第一部の講義の中で、実際にチュウ太の工具箱やCCIの手法をグループごとに使って確認しておけば、イメージしやすく第二部のグループワークに入りやすいのではと感じた。

評価アンケートでは、配布資料、進行、ヘルスリテラシーの学びについてほぼ全員が満足と回答している。時間配分についてのみ、満足度が8割であったが（表1）、グループワークの時間、話し合いの時間がもう少しあればさらに充実するのでは、という意見がほとんどであった（図1）。今後の保健活動においてはもちろんのこと、あらゆる場面において有益なツールであり、積極的に活用していきたいとの感想が多かった。KH coderを用いた明日から取り組みたいことに関する頻出語の関連を示す共起ネットワーク上でも、「グループ」と「ツール」が中心性の高い語彙であった（図2）。この分析には、一般的な「思う」と「使う」を除く5回以上出現した頻出語を投入した。ツールの中でも文章の難易度を測定するチュウ太が人気であり、ツールの活用場面はチラシや資料作成で、住民にとって分かりやすい工夫をすることが述べられていた。

【考察】

「健康の維持向上のために情報を得て、理解し、使おうとする知識と技術」と定義されるヘルスリテラシーの低さが課題となっている今日、住民の健康維持のため、日常生活における疾病予防やQOL向上に対して取り組んでいる保健師に対する活動支援は大変重要な取り組みである。ヘルスリテラシーが低いことが、住民の健康に影響するからである。

玉石混淆の情報があふれ、情報の適切な取捨選択が難しくなっている現代社会において発生した福島原発事故では、様々な非科学的な情報も飛び交い、住民は真のリスクを見極めることは容易ではなかった。特に住民に適切なリスク認識と行動選択を促すべき保健活動にあたっては、放射線健康不安や生活習慣病の増加に伴い、今まで以上に住民に対する健康指導の必要性が問われている。住民側のヘルスリテラシーが課題であるからこそ、情報提供側はヘルスリテラシーを向上し、より伝わりやすさを重視して情報を準備する意識が求められる。アンケート及び集計結果からわかるように、研修資料や講義内容についてほぼ全員が満足と回答し、ヘルスリテラシーの評価法、技法を積極的に活用していきたいと答えていた。住民に対して健康指導内容をよりわかりやすく伝える為には、ヘルスリテラシーの向上が求められており、本研修の果たした意義は大きいと思われる。

本研修においては、ヘルスリテラシーという新しい知識と技術の習得に重点が置かれている為、研究の目的となる放射線リスク認知や精神健康度の検証については十分とは言えない。住民に適切な放射線健康リスクを伝え、適切な行動を促すためには、情報を発信する立場の保健師自身が、住民の放射線不安の実態を捉えたうえで、伝えるべき放射線関連の基礎知識を備え、震災後に積み重ねられていく知見で更新していく必要がある。その上で、保健活動の対象ごとに優先して伝えるべき情報を選び、効果的に伝えることが求められる。今回、放射線の基礎知識や現状のリスクに関する講習について保健師側からの要望がなかったため、情報発信の効果的方策として様々な保健活動に応用可能なヘルスリテラシーの講習に併せて実施されることとなった。震災後しばらくして関心が薄れかけた放射線健康リスクへの住民の関心が、避難指示区域の解除が進む時期となり再び増してきていることも地域の保健師から報告を受けている。保健師の要望に基づく出前講座の形式で事業を行っている以上、放射線に特化した検討は容易ではないが、地域の置かれた状況を鑑みると今後引き続き取り組むべき大きな課題であると考えられる。

表 1. 参加者の研修評価

評価項目	「(大いに) そう思う」*	
	郡山市 N=14	福島市 N=45
研修の資料や進行について		
配布資料は適切だった	100%	98%
時間配分は適切だった	86%	87%
進行は適切だった	100%	96%
第一部の講義について		
ヘルスリテラシーの基礎について理解できた。	100%	96%
ヘルスリテラシーの技術について理解できた。	100%	89%
講義は今後の保健活動に役に立つと思う	100%	96%
学んだことを同僚に伝えたいと思う。	100%	89%
第二部の話し合いについて		
話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	100%	96%

*5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」

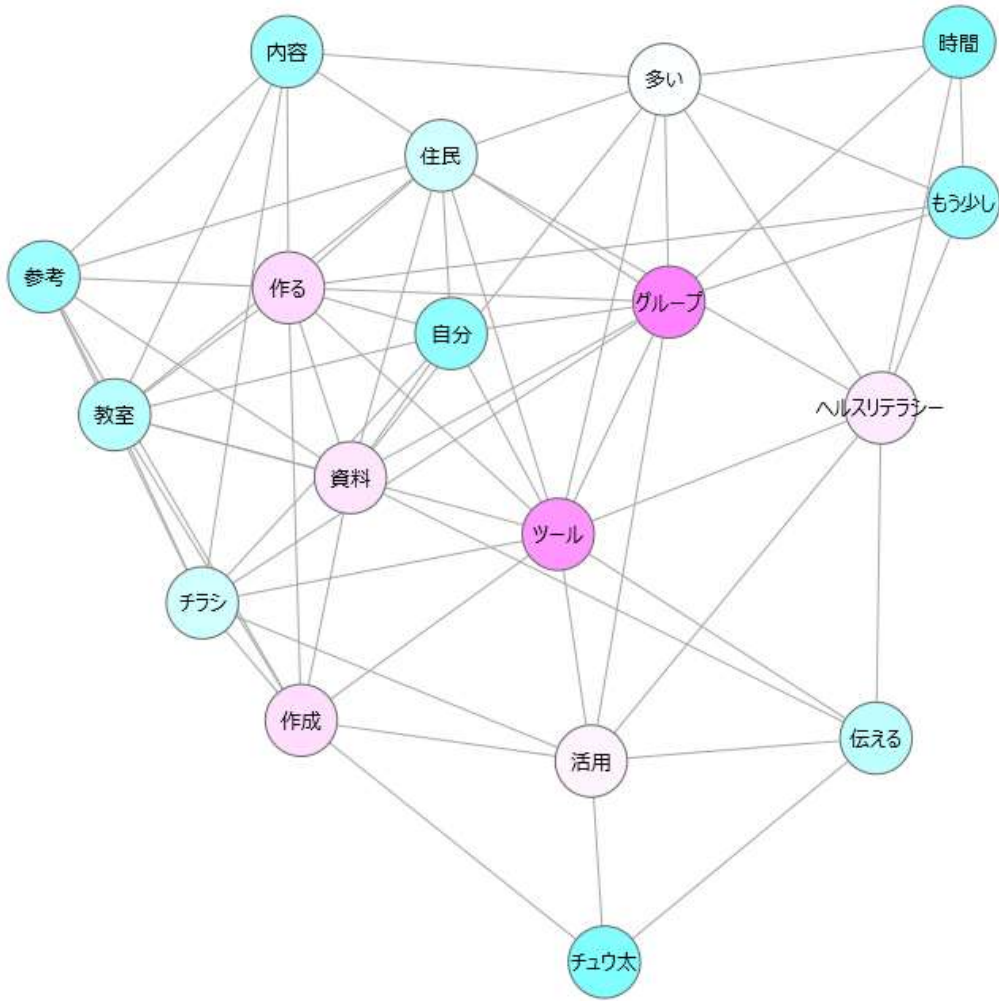
図 1. 明日から取り組みたいことに関する自由意見

郡山市
現在、回覧しているチラシやパンフの改善、見直しを行い特定保健指導へも取り入れてみたいと思います。
現在使っているパンフを皆で CCI、SAM の視点で分析したり、チュウ太を活用したいと思いました。
否定文を使わない。
先行オーガナイザー、チュウ太を活用したわかりやすい文章作成。
短時間で学べる内容だった。表記の仕方⇒結論から書くということを心掛けたい。
教室を開催する時に市民の方へわかりやすく実践したいと思えるような指導をしていきたいと思えます。
市民へ周知しているチラシを再度チェックしてみようと思いました。
配布物が多いので内容の見直しを同職種間だけでなく他の人の目で見てもらおうと思います。
分かりやすく伝えるにはコツがあるのですね。資料を振り返り、チュウ太を利用してみたいです。話を聞いてわかりやすく伝える意識が変わりました。
ウェブサイトには感染性情報（予防法など）を挙げているので、わかりやすい表現になっているか、伝わりやすいか、確認してみたいです。落ち込みそうですが、楽しみです。
今回 2 回目の受講でした。1 回目の受講の後、ヘルスリテラシーを頭に入れて業務にあたっていたのに、時間が過ぎ薄れてきていたと反省しました。また、常に頭にいれて、日々の業務に生かしてツールとして利用していきたい。
相談時に「これくらいは伝わるだろう」と無意識に専門用語を使ってしまっている時があると感じたので、市民目線になって寄り添った伝え方をしたいと思いました。また、ヘルスリテラシーを活用す

<p>るだけでなく、もっと周囲に広めなければ、と思いました。</p>
<p>今回、いろいろなツールを教えてもらったので使ってみたい。まだポイントがわかっていないので自分なりにかみくだいていきたいと思う。</p>
<p>グループワークをもう少し時間をかけて挑戦してみたかったです。ありがとうございました。</p>
<p>もう少し時間があると嬉しかったです。（非常に有意義な研修会でした）</p>
<p>話し合いの場がもう少しあると楽しいと思った。</p>
<p>健康だけでなくあらゆる業務に役立つように思います。</p>
<p>前回、残念ながら受講できませんでしたが、今回受講出来てよかった。また、同僚とグループワークで話し合える機会があり良かった。ありがとうございました。</p>
<p>知らないことを知れるのは感激です。新しい情報をどんどん学んでいきたい。</p>
<p>今度は実務レベルでの資料で挑戦してみたいです。自分や周りが作った資料の良しあしについてグループで話してみたい。</p>
<p>今日の演習をもっと時間をとってやってみたい。</p>
<p>もっと長い時間お話して頂きたかったです。本当に勉強になりました。ありがとうございました。</p>
<p>福島市</p>
<p>チュウ太を使ってみたいと思いました。年度末で事業のまとめの作成にも活用したいと思います。</p>
<p>H29 のリーフレット作りが今週の仕事なので参考になります。</p>
<p>文章や資料を作る時に参考にしようと思います。頭において・・・</p>
<p>チラシや案内、講演時に使用するパワーポイント等修正したいと思いました。</p>
<p>自分で住民の方にパンフレット（リーフレット）を作る際に役立つ研修でした。わかりやすいパンフを作ろうと思いました。</p>
<p>チュウ太や SAM, CCI は使ってみたい。マーカー法も簡単にできそう。</p>
<p>チュウ太やってみます。頂いた道具で確認してみる。</p>
<p>分かりやすくすること（資料や説明など）。</p>
<p>伝えたいことが伝わるような工夫を大切にしていきたいと思いました。</p>
<p>現在パンフレットやポスターを作成しているところだったので、ツールを使いつつ市民に分かりやすく伝えたいと思います。市役所からの文書全体にいえること・・・とあってきていました。</p>
<p>来年度の事業ポスターを作成中なので、メッセージ、言い換え、レイアウトを考えて作ろうと思います。また、他の職員と共有してよりよいポスターを作ろうと思います。</p>
<p>リテラシー3段階の活用。マーカー法。</p>
<p>作っている講座の資料をもう少しわかりやすく見やすくしたい。</p>
<p>表やグラフを使った資料を使いながら打ち合わせをすることが多いので、わかりやすさ、見やすさに気をつけたいです。</p>
<p>リーフレットのたたきを作る予定（考え中なので）ツールをチェックしながら考えたいと思います。</p>
<p>口頭で伝える時、否定文でなく肯定文で伝えるようにしたい。</p>
<p>作成したチラシを人の目だけでなく、ツールを使ってみたい。</p>
<p>住民さんの立場に立ってわかりやすく努力したいと思いました。</p>
<p>自分では当たり前に使っていたり、やりがちな所がたくさんあったので、来年度のチラシ作成等に活</p>

かしていきたい。
教室の案内チラシを作成するときに興味をもって行ってみたいと思えるように作成する。
教室の案内作成時など、相手にわかりやすいチラシを作りたいと思いました。今日の内容を参考にしたいです。
住民向けの資料を作る機会（健康教室、体操教室、地域作りなど）がたくさんあるので、ツールを使ってどうなったか、自分の目で見て実感してみたい。
資料を作成する際の参考にしたい。
グループワークでツールを使って話し合ってみることで活用の仕方の理解が深まりました。チラシ作成などに活用したいと思いました。
用語の言い換えを参考に、住民の方にわかりやすく説明していきたい。
住民に向けて情報発信をすることが多いので、これからヘルスリテラシーを意識してツールを使いながら情報提供できるようにしていきたいと思います。
街の中にあるヘルスリテラシーを探してみようと思います。
ヘルスリテラシーという考え方を常に頭において、資料作成に生かしたいと思います。
作成した資料をSAMなどを使用し見直してみようと思いました。
初めて知るツールがたくさんありました。これらを使ってエビデンスレベルの高い指導ができたらと思います。
チラシや案内作成の時に活用、また文章がわかりにくいと思ったときにツールを利用したい。（今は機会が少ないのですが）
「一質問法」を早速やってみます。
誰に向けての資料なのかを考えて、資料を作る時用語やレイアウトを考えて作っていきたい。
チュウ太は使ってみようと思います。
ツールを使ってみる時間が持てると良かったと思いました。全体的にスピーディーですっきりまとまって良かったです。
発言者の席に移動して聞く方法良かったです。ありがとうございました。
人が集まる講座チラシの作り方。手に取りたいと思うリーフレットの作り方。
作業をもう少しやってみたかった。話し合う時間が少なかった。
グループ内での討議がもっと互いの業務内容に関わるものだったり、互いのことを知ることができる内容だと良い。（個人作業が多かったのも、せっかくの機会なので）
もう少し時間があればもっと面白いと思う。
ヘルスリテラシーの講義楽しいです。演習の時間を多くもう少し深めたかった・・・。
プレゼンテーションの技術。

図1. 明日から取り組みたいことに関する自由意見の頻出語の関連



添付資料

平成 28 年度 保健師等支援研修会 開催要領

1. 目的 ①保健師の放射線と育児支援に関する知識・技術の向上
 ②保健師同士、保健師と医師の情報交換
 ③保健師のストレス、不安軽減

2. 日時 平成 29 年 1 月 16 日（月） 14:00－16:00
 平成 29 年 2 月 14 日（火） 13:30－15:30

3. 会場 郡山市保健所（1 月）、福島市保健福祉センター（2 月）

4. 対象 主に地域保健事業に従事する保健師
 ※栄養士、看護師、歯科衛生士等でご関心のある方のお申込みも
 歓迎いたします。

5. 内容 別紙プログラムのとおり

6. 参加費 無料

プログラム（※平成 29 年 1 月 16 日郡山市保健所）

13:40	受 付
14:00	開 会
14:10	<p>第一部：知識の共有</p> <p>◆講義 「ヘルスリテラシー ～健康情報を読み解く力、 伝える力～（概論）」</p> <p>◆講師 福島県立医科大学総合科学教育研究センター 教授 後藤あや</p>
15:00	休憩
15:10	<p>第二部：話し合い</p> <p>◆進行 福島県立医科大学医療人育成・支援センター 助手 安井清孝</p> <p>◇グループに分かれての話し合い「今日学んだこと」 ※各グループにファシリテーター配置 ◇グループ発表</p> <p>◆講評 福島県立医科大学総合科学教育研究センター 後藤あや</p>
16:00	<p>閉会</p> <p>※閉会后、「研修評価アンケート」の記入をお願いいたします。</p>

話し合いの記録

平成 29 年 1 月 16 日 (月)

郡山市

【A グループ】

- ・メッセージが二つになっており、伝えたい事がわかりづらい。伝えたい内容を強調するとよい。(CCI 1)
- ・タイトルに関連ある元気な母子(ママと赤ちゃん)のイラストを使う。
- ・調査結果部分→伝えたいメッセージが複数ある。
- ・いつ生まれた子など時期が不明(CCI 1~5)
- ・具体的な行動が書かれていない(CCI 11~13)
- ・トピック 4→%のみで、羅列になっていてわかりづらい。
- ・原発と母乳の何が関連しているのか、という危険性の性質の説明がわかりづらい。(CCI 17~19)

【B グループ】

- ・トピック 7 がわかりづらいので、見出し(タイトル)をつける。「Q&A」
- ・内容に沿って記載する。「母乳について」「妊娠中(母)」「予防接種(児)」「児のこと」「離乳食」「甲状腺検査」「上の子の対応について」
- ・結論を明確に最初に示す。
- ・文章が長いので簡潔にする。
- ・見やすい表示にする。
- ・大切な部分が強調されていない。
- ・放射性物質をわかりやすい表示にする。→放射線を出すことができる物質。
- ・強調したいところを下線または赤字で表記する。震災後のママの母乳から放射性物質は、
検出されていません。 お問い合わせ先 福島県助産師会 0120-80-2051
- ・QRコードを表示。そこから詳細な情報を得られる。
(TEL 番号も控えずにアクセスできる)
- ・最後に笑顔のイラストと共に入れる。→**Let's try !!** 一人で抱えないで気軽に相談機関に話してみましよう! きっと楽になりますヨ

【C グループ】

- ・トピック 5 の文章をチュウ太に入力したところ、★★★ふつうだったが、文章を改めたところ、★やさしいになった。
この調査の結果、支援が必要な方に助産師が電話・メールで相談を行いました。

- ・イラストは、医師ではなく妊婦さんにする。(関係ある絵にする)
- ・電話支援対象者数を表にする。(23～25年度分 3回繰り返しているので表にした方がよい)

話し合いの記録

平成 29 年 2 月 14 日 (月)

福島市

【A グループ】

<伝えたいメッセージ>

- ・対象者をはっきり伝える。
- ・伝えたいメッセージを一つに絞る。
- ・関心を引く表紙にする。
- ・タイトルの工夫 (強調したいところはどこか)

妊婦のみなさんへ 原発事故の影響は? or 電話相談 Q&A or 福島県の妊婦に
対するサービス

<文章の書き換え>

- ・「政府統計、一般的に報告されているデータ」という言い方⇒全国調査という言い
方のみでよいのでは。

<レイアウト>

- ・字が多すぎる。レイアウトを変え、もっと情報量少なくする。

<グラフ>

- ・これまでの電話支援状況⇒グラフにするとよいのではないか。
- ・トピック 4、グラフにして割合の推移がわかりやすくなるようにする。
- ・数字ばかりが多い (数字に対する補足の説明も多い) ⇒図。イラストへ。

<イラスト・図>

- ・図表やイラストにタイトルをつける。
- ・親しみやすいイラストにする。
- ・妊婦の鬱傾向のところのイラストを内容と一致したものにする。
- ・伝えたいメッセージについて・資料がつかわれていると良いのではないか。
- ・一番伝えたいメッセージをもっと視覚的に協調して書いてあるとよいのではないか。

【B グループ】

<見出し>

- ・「トピック」は、安心情報にまとめてはどうか。
- ・見出しがわかりにくい。番号をふってはどうか。
- ・トピック 7:イラストと吹き出しで分かりやすくできないか。

<言い換え>

- ・「専用お問い合わせを開設」と「妊産婦専用ダイヤル・・・」文言が異なるので統一させる。

- ・低体重、先天奇形など定義を言い返して住民にわかりやすく説明する。
（早産、低体重、先天奇形など）

<グラフ>

- ・トピック 2 の数値は、グラフの方が比較できわかりやすい。
- ・トピック 2:ピストグラムだと見やすい。
- ・トピック 3:比較しにくい⇒グラフの方がわかりやすい。
- ・母乳で育てている方、増えてきている。
- ・トピック 4:母乳が増えているとはすぐに思えなかった。グラフだとわかりやすい。

<メッセージ>

- ・◆の内容を短くわかりやすくしながら吹き出しにしてはどうか。
- ・トピック 1、2、4 は必要ないのでは。
- ・一番伝えたいメッセージが資料の上にあるが、視覚的協調が弱い。
文字を大きく太くしてはどうか。
- ・福島で安心して妊娠、子育てできるようなメッセージをはじめに載せた方がよい。

【Cグループ】

<見た目>

- ・分かりやすいイラストを入れる。
- ・文字の大きさに大小をつけてわかりやすくする。
- ・グラフのタイトル、グラフに説明を入れる。

<内容>

- ・それぞれのデータから伝えたいことを明記する。結果だけでなく何が言いたいのか。
- ・トピックがたくさんありすぎるので絞る。

<わかりやすさ>

- ・早産、低出生体重児、政府統計などの専門用語をわかりやすくする。
- ・情報量を少なくする。
- ・放射性物質の検出⇒放射線を出す事ができる物質は出ていません。
- ・早産率⇒37 週より早く産まれた児の事。

【Dグループ】

- ・全体的に情報量が多い。文字が多い。
- ・チュウ太利用にて、少し難しいから普通になった。
- ・誰に配布するのか？「ターゲット」をはっきりさせる。
- ・福島で「妊娠」「出産」「子育て」をしたい方へ
- ・「専用お問い合わせ先」を先に出すなど工夫する。
- ・伝えたいメッセージ、文字の大きさを大きくするなどレイアウトを考える。
- ・トピック 4、トピック 5 の数値は何と比べて増減を言っているのか。全国の傾向は？
- ・トピック 7 の相談内容ポイントを絞ってはどうか？「子育て一般」「放射線」

【E グループ】

- ・トピック 7 の Q7 : 大量に体内に⇒たくさん体の中に 小児⇒子ども 発生⇒起こる
検出⇒見つかる
- ・結果から何を伝えたいのかを書いた方がよい。
- ・誰に向け何を伝えたいのかをきちんと書いた方がよい。
- ・大きな字でスペースをとって示した方がよい。
- ・皆様の疑問へ⇒あなたへ、とし対象をわかりやすくする。
- ・専用お問い合わせを開設⇒近くに問い合わせ先を記載する方がよい。

<グラフ・イラスト>

- ・表のイラストを妊婦さんにするとよい。誰向けなのかを考える。
- ・トピック 5 のイラストは無くてもよい。
- ・トピック 1 は、棒グラフの方がよい。

<タイトル>

- ・タイトルと内容を一致させたほうが良い。
- ・タイトルを「福島で妊娠されたあなたへ」とする。

【F グループ】

<対象・目的>

- ・誰に対してのパンフレットか、目的が定まらない。
- ・字が多いのでイラストやグラフでまとめる。
- ・福島で妊娠された方へ⇒福島で子育てを考えている方へ

<表・グラフの使い方>

- ・調査内容と相談内容は分けた方がわかりやすい。
- ・トピック 6 の表をグラフへ変更。
- ・電話支援状況は、表にまとめる。

<レイアウト>

- ・トピック 8 : 県のサービス専用ダイヤルをトピック 6、7 に呼応した形でトピック 8 へ。
- ・トピック 6、7 で多かったものをトピック 1-5 で出す。
- ・見出しをわかりやすく数を並べるのではなくて内容で分ける。
- ・トピック 5 のイラストは、うつ減に関連するものに変える。
- ・一番伝えたいことがあまり目立たない。

<用語の使い方>

- ・早産率、低出生体重児など専門用語はわかりにくい。⇒下に*をつけて説明する。

<内容>

- ・「保育所・・・拡充してほしい」の項目だけ他の結果とまた別な感じ。

【G グループ】

<はじめに> 調査について：何年度から何年度までの調査結果と書いた方がよい。

- ・何を目的として誰を対象にどのようにして行った調査なのかを説明したほうが良い。
- ・これからも皆様の心と体の健康を見守ります。⇒前のページに出してセンターをアピールする。
- ・そのうえで現在の状況をデータで伝えることで安心感が生まれてくる。

<トピック 1> 図にした方がわかりやすい。

<トピック 2> 出産予定⇒安心して産めるかどうかと質問を変えたらどうか。

<トピック 3> 政府統計や一般的⇒用語を変えて全国と比べてとしてはどうか。

- ・早産、低出生体重児、先天奇形⇒専門用語は言い換えるか注釈をつけたほうがよい。
- ・一般的に報告されている⇒具体的に

<トピック 4> 円グラフにしてはどうか。

<トピック 6> 読み取りやすくするには、年度ごとの変化がわかるように色別の棒グラフにしてはどうか。

- ・相談内容の表現を簡単にし、1位、2位、3位と順位を入れてはどうか。

<トピック 7> Q と A の文字の太さや色で分けると読みやすくなる。

<トピック 8> メール、インターネットの情報提供を行う際、QR コードをつけてアクセスしやすくする。

<全体的に> 専用ダイヤルの事態を大きく目立つ色で表示。

- ・イラストが暗い。全体的に絵に統一感がない。
- ・伝えたいメッセージを強調する。⇒原発の影響はない。専用ダイヤルがあるよ。

【H グループ】

<視覚で伝える>

- ・トピック 1: 表にすると目で見てわかりやすくなると思う。
- ・トピック 1、4: 比較なので SAM を活用してグラフの表現の方が伝わりやすい。
- ・トピック 1~4: 調査結果は3年間の変化を見ているので、図、表にした方がわかりやすい。

<わかりやすい表現>

- ・トピックという言葉になじみにくい。
- ・トピック 3: 早産・・・など言葉の意味を「用語の・・・&・・・評価」を」参考に理解できる解説を加える。数値だけの比較でイメージが難しいので SAM を参考にグラフで表現する。

<何を伝えたいかを明確に>

- ・「タイトル」色は女性らしいピンクでよいが、福島と妊婦を示すイラストがあるとわかりやすい。関心を引きやすいと思う。
- ・タイトルに一番伝えたいことを入れる。
- ・タイトルが、福島で「妊娠した」なのか福島に暮らす「妊婦さん」なのか不明。

<誰に向けた情報なのか>

- ・伝えたい対象が妊婦なのか産婦なのかわからない。

<レイアウト>

- ・全体のレイアウト⇒単調さを工夫する。
- ・活字⇒もう少し少なく。